

平成28年度 犯罪被害者週間行事

入場無料

12/16
金

犯罪被害者を支える

～隣人としてできること～

13:00～15:50(開場12:30) 定員130名

手話通訳あり(講演会のみ)／一時保育あり※要事前申込・下記参照

講演会

「犯罪被害者と隣人」

かわ な そう じ
■講師 川名 壮志 氏
(毎日新聞記者)

映画上映 85分

「わたし、生きてていいのかな」

監督・脚本：佐野 翔音

出演：本下 はの 永藤 さとみ

流しの 信之 円谷 まゆみ

※日本語字幕はありませんのでご了承ください。



参加申込方法 ※要事前申込(応募多数の場合は先着順)

荒川区男女平等推進センター(アクト21)まで、電話・メール・FAXにて。
メール・FAXには、住所、氏名、電話番号を記載すること。

●電話：03-3809-2890(受付9時～22時まで)

●FAX：03-3809-2891

●メール：act21@city.arakawa.tokyo.jp

一時保育

【定員】10名(先着順)

【対象年齢】1才から未就学児まで。

【申込方法】参加申込の際に伝えること。

会場

荒川区立男女平等推進センター(アクト21)

〒116-0012 荒川区東尾久5-9-3

交通

都電・舎人ライナー熊野前駅 徒歩1分



12/17
土

知る、寄り添う、考える

～大切な人が被害に遭った時のために～

13:00～16:15(開場12:30) 定員180名

手話通訳あり(講演会のみ)／一時保育あり※要事前申込・下記参照

講演会

「夢をあきらめない」

いし くら ゆ み こ
■講師 石黒 由美子 氏
(北京オリンピックシンクロ競技日本代表)



映画上映 110分

「0からの風」

監督：塩谷 俊

出演：田中 好子 杉浦 太陽

豊原 功補 袴田 吉彦

田口 トモロヲ

協力：特定非営利活動法人いのちのミュージアム

※日本語字幕付き



©長谷川彰介

参加申込方法 ※要事前申込(応募多数の場合は先着順)

武蔵野市 市民活動推進課まで、電話・メール・FAXにて。

メール・FAXには、住所、氏名、電話番号、希望人数、保育希望の有無を記載すること。

●電話：0422-60-1829(受付8時30分～17時15分まで)

●FAX：0422-51-2000

●メール：sec-katsudou@city.musashino.lg.jp

一時保育

【定員】5名(先着順)

【対象年齢】生後3か月から未就学児まで。

【申込方法】参加申込の際に伝えること。

会場

武蔵野スイングホール

〒180-0022 武蔵野市境2-14-1

交通

JR武蔵境駅 徒歩2分



主催：東京都／荒川区／武蔵野市

後援：警視庁／公益社団法人被害者支援都民センター／東京都町会連合会／東京都民生児童委員連合会／東京都公立中学校PTA協議会／

一般社団法人東京都小学校PTA協議会／東京都商工会議所連合会／東京都商工会連合会／社会福祉法人東京都社会福祉協議会／

東京都生活協同組合連合会／一般社団法人東京都病院協会／公益社団法人東京都宅地建物取引業協会／公益社団法人全日本不動産協会 東京都本部

お問い合わせ先 東京都総務局人権部人権施策推進課 電話：03-5388-2589(直通)

11月25日～12月1日は 犯罪被害者週間です

平成17年12月に閣議決定された「犯罪被害者等基本計画」において、毎年、「犯罪被害者等基本法」の成立日である12月1日以前の1週間が「犯罪被害者週間」と定められました。

12/16
金

荒川区立男女平等
推進センター(アクト21)

講演会

「犯罪被害者と隣人」

毎日新聞記者

かわ な そう じ
講 師 川名 壮志 氏

2001年、早稲田大学卒業後、毎日新聞社入社。現在千葉支局勤務。初任地の長崎県佐世保支局で「佐世保小6同級生殺害事件」に遭遇。同支局離任後も、少年事件の取材を続ける。警察回りや東京地方裁判所・東京高等裁判所、最高裁を足場とした司法取材にも取り組む。

映画上映

「わたし、生きてていいのかな」

監督・脚本：佐野 翔吾

出 演：本下 はの 永藤 さとみ
流しの 信之 円谷 まゆみ

現在「乳児院」「児童養護施設」「子どものシェルター」「自立援助ホーム」などで、社会的養護を受けて暮らす子どもの数は4万7000人以上。子どもを取り巻く状況は、年々厳しさを増しているようにも感じるが、そこで暮らす当事者である子どもたちの声、施設側のスタッフの声、施設を出て社会で暮らす人たちの声が、私たちに届くことが少ないのが現状である。彼らが何を感じ、どう生きようとしているのか。また我が子を、社会的養護に預けざるを得ない状況に追い込まれた親たちは、何を思い生きているのか…。

本映画は、「社会的養護」の背景と現状を描く。



12/17
土

武蔵野
スイングホール

講演会

「夢をあきらめない」



北京オリンピックシンクロ競技日本代表
奈良女子大学大学院博士課程

いし くら ゆ み こ
講 師 石黒 由美子 氏

1983年10月生まれ。愛知県出身。小学校2年の秋、交通事故に遭い、顔面を540針、口の中を260針も縫う大けがを負った。入院中にテレビで見たシンクロナイズドスイミングに憧れ、翌年から競技を始めた。記憶喪失や顔面まひ、視力障害、難聴などの様々な後遺症に苦しみながらも母と二人で夢の舞台であるオリンピックを目指し、2008年北京オリンピックに見事出場を果たす。その傍ら2007年には愛知教育大学にて幼稚園から高校までの教員免許を取得。2009年4月より神戸大学大学院に進学。小学校と看護専門学校で非常勤講師を勤めた。現在は奈良女子大学大学院に在籍。「いじめ問題」をテーマに研究中。当面の目標は博士号の取得と世界マスターズで金メダルをとること。

映画上映

「0からの風」

セロ
監督：塩谷 俊

出 演：田中 好子 杉浦 太陽 豊原 功補
袴田 吉彦 田口 トモロヲ

協 力：特定非営利活動法人いのちのミュージアム

実際に起きた交通犯罪を基に描かれた映画。2000年の春、主人公のひとり息子は早稲田大学に入学1週間後、無車検・無保険の車にはねられ即死した。加害者の男は免許失効中の身でありながら、泥酔状態で車を運転。3度目の事故であるにもかかわらず「業務上過失致死傷罪」と処理され、刑期は当時で最高の5年。殺人に等しいほどの重罪なのに、何故「業務上過失」なのか。何故たった5年の刑期なのか。一人息子を亡くした喪失感、絶望、怒りが交錯する中、刑の軽さに疑問を感じた母が、同じ思いを抱く仲間達と共に2年間街頭に立ち、約37万人の署名を集め、刑法改正による「危険運転致死傷罪」の成立を成し遂げる。



©長谷川彰介